



日本SPF豚協会だより

2020. 7
No.80

提 言

新型コロナ禍とSPF豚農場認定制度の危機

一般社団法人日本SPF豚協会 会長

北島克好

「身の危険、感じる前に感じ取る」、今年も美しい桜吹雪を見せてくれた霞ヶ浦から続く旧海軍道路の桜並木沿いにある立看板の標語です。

新型コロナ禍中の中、ここを通るたびに「身」を「協会」に置き換え、80年前の予科練生は、50年前のSPF創設の先人は、時代に何を感じ取ったのだろうかと自問・自照しています。

年明けまではブタやイノシシの豚熱(CSF)の発生、ワクチン、規制など農水省関連の報道が新聞、TV等のマスコミで大きく取上げられ、豚コレラの呼称が豚熱と変わるほど関心を集めました。

ところが、昨年末に中国の武漢が初発とされる新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的な感染の急拡大で、今までの生活様式が一変するような状況に陥ってしまいました。

PCR、抗原、抗体、環境規制などの養豚の世界では馴染の医学用語に加え、密を避ける、隔離する、交差しないなど衛生動作におよぶ規制が日常会話化し、ヒト社会にSPF豚農場防疫管理基準を具現化するのでは、と思えるほどの変化でした。

日本の養豚は、4月20日で発生から10年を迎えた口蹄疫以降、インフルエンザ、PEDそして豚熱と疾病が2～3年毎に急拡大し、生産から販売まで広範囲に影響を与え、養豚産業の存亡をかけた疾病との闘いに多くの犠牲を払いながら、その教訓を糧にして官民で防疫体制を構築してきました。

そのなかでもSPF豚認定農場は、疾病が原因の経営断念や生産規模を縮小した農場はなく、さらに防疫を高め発展的に事業を継続されています。このことは協会会員ならびに関係者の半世紀を越える苦悩と模索の歴史の証と重く受止めています。

一方、今回の新型コロナウイルスはヒトで感染拡大したことから、行政がヒトの行動に対し自粛要請により大幅な規制を

課したため、各ピラミッド担当者から6月のSPF農場認定申請書類の期限内提出が困難との声が協会事務局に寄せられました。特にヘルスチェック検査は、農場やと場への訪問が不可欠ですが、規制解除の見通しも立たない中、農場やと場からは立ち入りを断われ、勤務先からは原則出張禁止となり認定作業が滞る事態となったためです。長い歴史の中でもブタでなくヒトの感染症が原因で認定業務の中断を余儀なくされたことは過去に例がありません。

これまで災害やブタの感染症拡大等で認定ができない事態が起きた際は、地域や期間が限定されたことから、認定期間延長という措置で対応してきました。そのたびにヘルスチェック検査について、非常時(緊急時)の代替法を検討すべきとの声が上がりましたが、可能性や論点を整理している合間に非常(緊急)事態が収まり、日常が戻るとつい先送りし、今日までできてしまいました。

しかし、今秋には新型コロナの2次、3次の波が必ず来るとの報道や、新コロナ同様有効なワクチンが製品化されていないブタのアフリカ豚熱がいつ侵入してもおかしくない状況をみても、認定事業の根幹であるヘルスチェックの、非常時(緊急時)の確認方法確立は急務です。遅きに失したところもありますが、協会として、明文化する(認定細則に盛り込む形を含め)具体的な検討に着手することとしました。

半世紀前に、「感じる前に感じ取った」協会創設の先人達が、国内に蔓延した農場生産性を著しく低下させる慢性疾病対策として、米国から技術導入し研究からスタートしたSPF養豚ですが、今回の新型コロナによって一変するヒトの生活様式においても、「安心と信頼のSPF養豚」を継続するため、根幹(指標)である認定制度の危機を乗り越えるため、会員ならびに関係者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

新型コロナウイルス感染拡大を考慮し 今年度の**定時総会**は 書面表決に変更

●令和元年度事業経過報告

天災や疾病などさまざまな困難が相次いだ中、協会創立50周年記念セミナーおよび祝賀会を、9月5日に盛大に開催できたことは不幸中の幸いでした。また、50年記念誌もフルカラーの豪華版を制作することができました。ご協賛いただいた方、ご参加いただいた多くの皆様にお礼申し上げます。

例年同様SPF豚農場認定制度を柱とする各事業にも取り組みました。認定農場数は179農場（GGP、GP20農場、CM159農場）で11農場減少、飼養母豚数は75,533頭となり、4,123頭（5.2%）減少しました。これは、東北を中心とする大型グループ農場の退会と大規模農場の休止によるもので、特に飼養頭数は約6,000頭以上減少となりました。一方で、新規GP農場のフル稼働や複数農場の規模拡大があり、全体では約4,000頭減にとどまりました。

CM農場の生産成績をみると、一貫経営農場では1母豚当たり年間出荷頭数が22.5頭（昨年度22.4頭；全国平均19.2頭）と0.1頭増加、A薬品費（抗菌性物質）は249円（全国平均は800円強）で昨年につづき13円増加、農場要求率は3.14（昨年度3.19）でした。繁殖専門農場（繁殖-II）では1母豚あたり年間出荷子豚頭数が23.4頭（昨年度23.1頭）で0.3頭増加、A薬品費は131円で7円減少しました。肥育専門農場（肥育-II）はA薬品費が131円で3円減少しました。全体として足踏み状態が続いています。

認定規則の改正にともなう細則策定については、動衛研山田俊治先生のご協力をいただき、規則や農場の実状との整合性を考慮しつつ整備作業を進めました。

SPF豚の普及促進活動として、例年10月に川崎市で開催される「ちくさんフードフェア」は台風19号の影響で中止されました。また、千葉県認定農場に協力いただいている「こども食

堂」への食材提供は、台風の影響等で見合わせた時期もありましたが、7回実施し、300人近くにSPFポークをアピールできました。しかし、新型コロナの影響がこども食堂にも及んでいるようです。

協会だよりは予定通り75号、76号、77号、78号を発行いたしました。ポークリーフレットはリニューアル版及び英語版を作成しました。

また、前年度全面的にリニューアルした協会ホームページは、わかりやすい情報提供を心がけ、更新頻度もアップさせました。反響も大きく、アクセス数も増加いたしました。

CSFの発生や中国におけるASF拡大の中、農林水産省関係部署より依頼を受け、ホームページや協会だより、ピラミッドを通じて情報提供し、防疫意識の再徹底を促す注意喚起も行いました。

●令和2年度事業計画

新型コロナウイルス感染拡大による今後の社会情勢の変化によっては事業推進が困難になる可能性もありますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

◎SPF豚農場認定規則および細則の整備

飼養衛生管理規準改正に伴い、認定規則および細則について基準との整合性を図るための検討を早急に行います。整備後はピラミッドならびに生産者に対し説明の場を設けません。

◎認定委員会の開催

認定委員会は6、9、12、3月の計4回開催します。状況によっては書類審査を中心とし、出席者を絞っての開催も検討し

本年度の定時総会（代議員会）は6月17日（水）、東京都千代田区のKKRホテル東京において開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、いまだに厳しい状況にある東京にお集まりいただくのは避けるべきであるとの判断から書面表決に変更いたしました。代議員の皆さまのご協力により、昨年度の事業経過・決算報告、代議員改選案、今年度事業計画案および予算案などすべての議案について、全員にご承認いただきました。主な議案の概略を掲載します（会員の皆様には議案および議事録をお送りいたしました）。

ます。

◎防疫設備基準、防疫管理基準の徹底

SPF豚農場認定規則及び関連する基準、細則に基づき、厳格な運用を行います。

◎認定成績集計結果のフィードバック

SPF豚農場認定申請の際に提出される生産成績を集計して、認定証発行時にこれまでの成績の推移を、また年度末に、各認定項目の順位表を、各ピラミッドを通じて農場にフィードバックします。ベンチマーキングに活用して農場成績の改善に役立ててもらいます。また、生産成績のランク分けについて、絶対評価の導入も引き続き検討します。

◎生産成績優秀CM農場の表彰制度の継続

引き続き、総合生産成績および商品化頭数について最も優れた成績を収めた農場を選考委員会により選定、表彰します。また、表彰の対象項目についても引き続き検討を加えていきます。

さらに、過去の生産成績が、一定期間上位25%に位置している農場には成績優秀の証しとして認定証にAマークを付記します。維持年数・割合等についてはその都度検討します。

◎SPF豚セミナーの開催

11月の開催を予定しております。内容についてはピラミッド会議を中心に検討します。

◎ピラミッド会議の開催

年2回の開催を予定しています。セミナーのテーマをはじめ、これからの協会の支柱となる事業について、ヘルスチェック検査のあり方、抗菌物質を使わない養豚への取り組みなどを検討します。

◎協会だよりの発行と協会ホームページの充実

協会だより79号(4月)、80号(7月)、81号(10月)、82号(1月)を発行します。

会員へのインタビュー、SPFポーク販売の取り組みなどを引き続き取り上げます。

また、協会ホームページの活用を強化し、情報提供、会員相互の交流の場として活用できるよう、更新含め内容を充実させます。

◎実験用家畜ブタ生産農場のAW状況調査と啓発

昨年に引き続き取り組みを継続します。

◎地域研修会と技術懇談会の開催

疾病問題等で開催が難しい中、小規模のSPF養豚の勉強会が出来ないか、方法を検討します。

◎販促用資材等の提供

店頭用ポークリーフレット（リニューアル版・英語版）、協会パンフレットを引き続き希望会員に無料で配布します。また、認定マークの積極的な活用を会員に働きかけます。

◎食育等への協力

千葉県認定農場と協力し、子ども食堂へのSPFポーク提供を引き続き行っていきます。子どもの食に対する関心を喚起し、他の地域での態勢づくりも検討していきます。

◎SPFポークの普及

- 1) 啓発・宣伝の媒体としての異業種との取り組みを模索します。
- 2) 10回目となる日本食肉センター主催「ちくさんフードフェア」に出展を予定しています(10月10、11日予定)。また、負担の少ない形で参加できるイベントがないか情報収集します。
- 3) 認定農場の直売やネット販売等の状況、SPFポーク販売店の情報について収集・整備し、正しい情報をホームページ等で提供していきます。

(代議員改選については7ページの「協会からのお知らせ」に掲載)

豚水胞病とは

豚水胞病は、ピコルナウイルス科エンテロウイルス属に分類される豚水胞病ウイルス(SVDV)に起因する急性熱性伝染病です。症状として、発熱や口、鼻、蹄および乳房における水疱や潰瘍およびそれによる跛行が認められます。SVDVは熱に対して比較的抵抗性を示し、塩漬け肉、干し肉および燻製肉中で長期間生存することが可能です。豚水胞病は、病勢が弱く、不顕性感染も多いため、経済的に重要な疾病ではありませんが、口蹄疫と症状が類似しているため、類症鑑別が必要となります。豚水胞病は、豚においてのみ発生が報告されていますが、実験的にはマウスにも感染することが報告されています。

豚水胞病は、1966年にイタリアで初めて確認されました。1971年には香港で大流行し、その後欧州やアジア諸国で確認されるようになりました。SVDVは、ヒトのコクサッキーウイルスB5型が豚に馴化したものと考えられており、両ウイルスの抗原性が近縁であることが報告されています。またSVDVは、ヒトのコクサッキーウイルスA16型とも血清学的に関連することが報告されています。一方、SVDVとその他の豚エンテロウイルスとの間に、抗原的な関連性は見出されていません。SVDVは血清学的には単一ですが、ゲノムのVP1および3BC領域の塩基配列およびモノクローナル抗体との反応性に基づき、4種類の群に分類されています。わが国で過去に分離されたSVDVは、4種類のうちの第二群に分類されています。

伝播

SVDVに不顕性感染した豚の導入が、豚水胞病の豚群内への最も主要な侵入経路です。また、SVDV感染豚の排泄

物、特に糞便との直接接触やSVDVに汚染された加熱処理されていない食品残渣の給餌も伝播経路となります。前述のように、豚水胞病の病勢は一般に弱く、不顕性感染も多いため、感染豚の排泄物によりSVDVに汚染された肉や臓器等が、気付かれることなく、流通してしまうことも想定されます。感染豚からのウイルス排泄は、通常感染後1週間程度であり、抗体の上昇に伴って、それ以上持続することはないとされていますが、一部例学的に、糞便や鼻汁中へのウイルス排泄が3~4か月程度継続したとの報告も存在します。一方、SVDVは空気伝播しないと報告されています。そのため、開放型の排水路が共有されていない、あるいは豚部屋の豚の移動が頻繁でない農場においては、同一豚舎内においても伝播が起らない場合があります。

臨床症状

臨床症状は、2~7日間程度の潜伏期後から確認され始めます。最初に確認される臨床症状は、一過性の発熱です。その後、口、鼻および蹄に水疱が確認され、それに続いて、跛行や不安定な歩様、振戦(編集部註:ふるえのこと)および肢を持ち上げる動作が確認されます。破裂した水疱は、その後潰瘍となり、稀に脱蹄する場合があります。若齢個体の方が臨床症状は重篤ですが、通常1週間程度で回復し、死亡することはほとんどありません。一方、前述のように、豚水胞病の臨床症状は口蹄疫と類似しているため、実験室内検査を行い、類症鑑別が必要となります。

一方、実験室内の所見から、人間がSVDVに感染し、髄膜炎あるいは腹痛や筋肉痛および脱力感といった全身症状等の弱いインフルエンザ様の症状を示す可能性が示唆されています。

予防と防疫対応



豚水胞病に対するワクチンは存在しません。防疫対応は口蹄疫のものに準じ、発生が確認されている農場や地域からの豚の導入を避けるとともに、国際航空機や船舶由来の食品残渣は豚に給与するべきではありません。仮に食品残渣を豚に給与する際には、給与前に適切に加熱処理することが必須となります。万が一、発症個体が確認された場合には、未発症個体から隔離する必要があります。清浄化対策としては、発症個体およびその同居個体を淘汰し、ウイルスに汚染されていると想定される豚房を洗浄および消毒する必要があります。

参考文献
Lin F, Kitching RP (2000) Swine vesicular disease: an overview. Vet J 160:192-201. <https://doi.org/10.1053/tvjl.2000.0505>

(編集部註: 次号が最終回となります)

ブタのウイルス病

連載 No.24



豚水胞病

農研機構 動物衛生研究部門
越境性感染症研究領域 口蹄疫ユニット(海外病研究拠点)
ユニット長

深井克彦

SPF豚農場認定規則ではSPFエリアへの物品の搬入に備えて消毒装置(動力噴霧装置、くん蒸室など)を完備し、適切な方法で消毒を行うよう規定されています。

そこで今回はくん蒸方法について再確認したいと思います。ホルマリンは劇物、人への危害、寒冷期の消毒能力低下、臭い残りなどの問題がありました。2004年横関と筆者らの実験により過酢酸製剤のハイペロックスがホルマリンに代替できることを報告し普及して来ました。他のくん蒸剤としてはグルタルアルデヒド製剤があります。これら薬剤について表にまとめました。

過酢酸製剤の新製品ピネパワーは表のように優れていますが、蒸散させるには加熱や動力が必要です。ナベ加熱の場合はくん蒸室にステンレス容器、電熱器、タイマーの他に隅々まで拡散させるための攪拌扇(写真)をセットし30分以内に完全に蒸散させます。火力が弱いと十分に蒸散しないので800W前後の電熱器が必要です。IHヒーターは蒸気でIC回路が壊れます。容器はハイペロックスでは加熱すると泡立ち溢れるので9倍容以上の容器が必要ですが、ピネパワーは泡立たないので3倍容程度を用意します。加熱以外では課題はあるものの電気式のマイクロジェット、エンジン式噴霧機が使えますが、エアコンプレッサー(溶液を噴霧し終わる量の空気タンク付)と細霧ノズルを用意すれば手軽にくん蒸ができます。いずれの方法でも蒸散後はミストが充満して15分程度室内が霞む必要があります。ミストの粒子径は5ミクロン前後と小さくないと浮遊時間が短

く十分なくん蒸ができませんから通常の動力噴霧機は散布の用途にしか使えません。過酢酸製剤の欠点は鉄材のサビ発生ですが、防サビ剤を添加すると抑制できます。しかし、ナベ加熱では防サビ剤が十分に蒸散せず鍋底に残るので余り効果が期待できません。くん蒸時間は蒸散15~30分+浮遊15分+密閉15分で消毒が完了し、換気を60分したら入室できます。当然のことながら物品の底面も消毒できるように床面はスノコ構造にし、外皮を外して重ね合わないよう配置します。

くん蒸用薬剤比較表

	過酢酸製剤 (例:ピネパワー)	グルタルアルデヒド製剤
消毒水準	高水準	高水準
除菌力	低濃度、短時間で強い除菌	強い除菌には高濃度が必要
芽胞(枯草菌 107)	消毒 2分以内、滅菌 5分(条件:過酢酸 3000ppm=0.3%)	消毒 10分、滅菌 6時間(条件:グルタルアルデヒド 3% =3万 ppm)
低温下	影響少ない	影響大、10℃以上で使用
有機物下	常温でも低温でも影響少ない	常温では影響少ない。有機物を固着し易いが、し難いとする製剤もある
適用	くん蒸、噴霧、浸漬、踏込消毒槽	噴霧、浸漬、(くん蒸)
畜舎のくん蒸方法	30倍希釈液を 15~30ml/m ³ 、15分	10~12.5倍希釈液を 30ml/m ³ 、180分、又は 45ml/m ³ 、60分
使用濃度	くん蒸 30倍(過酢酸 5000ppm)	くん蒸 10~12.5倍(主剤 2% =2万 ppm)
拡散性	大きい	小さい
コスト(推奨くん蒸時): 希釈液 30ml/m ³	2.9円(17kg品、30倍希釈)	約6~7円/10~12.5倍希釈(製品容量ほかの要因で大きな幅有)
人・動物への毒性	低濃度で目、皮膚などへの毒性は低い。呼吸器に対しては低濃度で刺激性(通常の紙マスクで抑制可)	目、皮膚、気道へのアレルギー作用、目への強い毒性、皮膚に付着で化学熱傷。人医療で労働災害事故
環境負荷	短時間で酸素、水、酢酸に分解。酢酸は糞便中にも含まれ徐々にCO ₂ に分解	化学物質排出把握管理促進法 第一種指定化学物質(人や生態系への有害性)
発錆性(鉄材など)	錆びやすい(防サビ剤添加で抑制可)	水と同程度
臭気	酢酸臭(紙マスクで抑制可)	特異な臭気。芳香臭付加品もある
動薬ほか区分	食品添加物 / 非劇物	医薬品 / 劇薬

第2回

農場バイオセキュリティ強化のための最新情報



物品のくん蒸方法について

アニマル・バイオセキュリティ・コンサルティング(株)
三宅真佐男

加熱くん蒸セット
(ステンレスナベ、電熱器、攪拌扇、タイマー)



協会からのお知らせ

●代議員の改選

今年度は代議員の改選期となります(任期5年)。第4期代議員および役員は次の方々です。よろしくお願いします。(順不同、敬称略)

<地域選出>

山中 茂樹(再任、(有)山中畜産)
 日浅 文男(再任、理事、(有)道南アグロ)
 布施 久(再任、(有)ふなばやし農産)
 渡辺 和宏(再任、(有)ケイアイファウム)
 飯田 恭久(再任、監事、全農畜産サービス(株)東日本原種豚場)
 高橋 充好(再任、(有)胆沢養豚)
 矢吹 和人(再任、(有)常陸牧場)
 細谷 広平(新任、(有)ほそや)
 下山 正大(再任、理事、(有)下山農場)
 綱島 良信(再任、(株)ツナシマ)
 高橋 秀樹(再任、(有)ピギー・ジョイ)

澤村 賢治(再任、長野県農協直販(株)SPF種豚センター)
 小椋 和典(再任、理事、(株)西日本ジェイエイ畜産)
 川島 力(再任、監事、(株)ユキザワ)
 新留 札男(再任、(有)新留養豚)
 平 芳紘(再任、(有)芳寿牧場)
 松本 伸一(新任、理事、(株)ファームテック)
 <ピラミッド選出、理事>
 坂口 一平(再任、全農畜産サービスピラミッド)
 増穂 賢志(再任、シムコピラミッド)
 秦 政弘(再任、サンエスブリーディングピラミッド)
 金内 一浩(新任、ホクレンピラミッド)
 金子 政弘(再任、日本農産工業ピラミッド)

<会員外理事>

北島 克好(会長)
 藤田 世秀(専務理事)
 林 寛康(株)林商店

●認定委員の交代

組織内人事異動に伴い、全農畜産サービスピラミッドの認定委員が沖 祐子氏より井片彩乃氏に交代いたしました。

●総会前理事会を

書面表決に変更いたしました

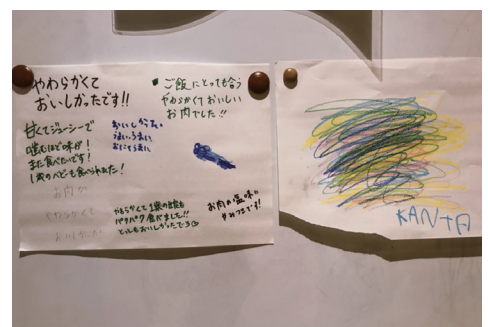
定時総会前に、総会議案を検討するため開催される理事会について、理事のほとんどが代議員であることから、書面による表決に変更することになりました。今年度の書面表決による総会前に、すべての議案について全理事に原案通り承認いただきました。

●7月の日本SPF豚研究会は中止に

前号でご案内した日本SPF豚研究会集会は、7月10日(金)、東京都文京区の東京大学構内・山上会館にて開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染状況を受け、中止となりました。

●市川子ども食堂参加者より募金をいただきました

千葉県の子川子ども食堂ネットワークが、豚肉提供のご協力をいただいている千葉県内認定農場の昨年秋の台風被害に対し、開催会場(7か所)に募金箱を設置してくれたそうです。総額68650円が集まったとのことでした。募金の用途について、協力農場の方々にご相談したところ、お気持ちだけ受け取り、子ども食堂の運営費用に充ててほしいとのことでしたので、その旨お願いし、受け取っていただきました。SPFポークが結んだ絆のようなものを感じました。参加者のお心遣い、寄付にご賛同いただいた協力農場に感謝申し上げます。



プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしいSPFポークレシピ



SPFポークの 絶品中華ソース和え

●レシピ提供・らーめん・海鮮丼 てしお川

料理長 梅津陽佑 (北海道札幌市)

今回は、お家で簡単にできる本格中華のおつまみを教えていただきました。温かいままでも、冷たくしても美味しい「ビールがなんぼでも飲まさる」一品です。たれの材料と分量がポイントのようです。ぜひお試しください、猛暑を乗り切りましょう。

●材料 ● (2人前)

- ・SPFポークばらスライス 200g
- ・レタス(千切り) 適量
- ・ミニトマト 適量
- ・ネギ(みじん切り) 適量1
- ・水菜 適量
- <たれ>
- ・オイスターソース 7g
- ・しょうゆ 12g
- ・砂糖 7g
- ・酢 6g
- ・XO 醤 8g
- ・おろしにんにく 3g
- ・すりごま 3g
- ・粉末ピーナッツ 3g

- ・ラー油 24g
- ・花椒(山椒) ひとつまみ
- ・五香粉 ひとつまみ(お好みで)

●つくり方 ●

- ① 豚肉を4等分に切ります。たれの材料を合わせておきます。
- ② 豚肉を熱湯でゆでてザルにあげ、水気をよく切ります。
- ③ 温かいうちにたれとよく絡めます(冷製の場合は氷水にくぐらせ冷ましてから水気を切ってから合わせます)。
- ④ お皿にレタスを敷き、③を盛りつけます。
- ⑤ 付け合わせのミニトマト、水菜、ネギを盛りつけて完成です。

★高木シェフからのアドバイス

- ・肉の水気をしっかり切らないとたれが薄まるので注意します。しっかり絡めましょう。

認定情報

●令和2年6月認定農場

※青字の7農場のみ認定、他は新型コロナウイルス感染拡大防止のための移動自粛によりヘルスチェック検査が実施できなかったため、3か月間の期間延長

(有効期間：令和2年6月4日から3年6月末日まで)

北海道・鈴木ビッドファーム、青木ピッグファーム(株)、(有)フロイデ農場、岩手県・全農畜産サービス(株)東日本原種豚場、(株)のだファーム第一農場、同第一肥育農場、福島県・(有)東和牧場、茨城県・(有)弓野畜産繁殖農場、同八郷農場、同千代田農場、(有)篠崎畜産、群馬県・JA東日本くみあい飼料(株)利根スワインセンター、利根沼田ドリームファーム(株)、(株)畜産経営研究所前橋農場、千葉県・(株)ユウアイ、高橋幸雄養豚場繁殖農場、同肥育農場、(有)ピギー・ジョイ第1農場、木内養豚第1農場、同第2農場、石毛宏司養豚場、塚本利昭養豚場、宮澤泰徳養豚場、吉田道養豚場、岡山県・岡山

JA畜産(株)荒戸山SPF農場、鳥取県・(株)西日本ジェイエイ畜産名和農場、愛媛県・富永養豚、(株)多田ファーム、JA西日本くみあい飼料(株)愛媛養豚実証農場伊予スワインガーデン、(株)多田ファーム天貢農場、佐賀県・JAさが天山ファーム、長崎県・(株)伊藤ファーム、濱田養豚、JA全農長崎県本部五島種豚供給センター、宮崎県・(有)レクスト繁殖農場、同肥育農場、ジャパンミート(株)川南農場、ジャパンミート(株)御池農場、クリーンファーム(株)、鹿児島県・鹿児島いずみ畜産(株)三笠農場、(有)さつま農場、(株)かいたく大口農場

※次回認定委員会は9月3日(木)(状況次第では4日(金)との2日間)の予定



日清丸紅飼料
株式会社
(東京都中央区)



疾病検査のエキスパートとして 科学的アプローチで農場をサポート

今回ご紹介する日清丸紅飼料(株)は早くから賛助会員として協会にご協力をいただいている会社の一つです。2003年、日清飼料(株)と丸紅飼料(株)の合併により現在の会社が誕生しました。

協会とのご縁の始まりは、日清飼料の前身である日清製粉(株)中央研究所検査センターの所長だった故三村二雄さん。三村さんは日本でSPF養豚事業が始まった当初から関心を持ち研究された方です。長い間SPF豚農場認定委員会の学識経験委員をお務めいただきました。協会編の技術書『ピッグ・ヘルス・コントロール—豚病清浄化プログラム』(1985年、チクサン出版社発行)の執筆者のお一人でもあります。

お話を伺った矢原芳博さんは獣医師、同社の疾病検査機関である畜産研究所(現総合研究所)検査センターに勤務され、所長を経て、この春本社に異動、技術サポート部長に就任されました。

検査センターの事業目的は「サービスではなくビジネスとしての検査」。自社の飼料を効果的に活用してもらうため、検査結果から科学的にアプローチし、農場をサポートすることにあります。矢原さんは豚疾病の専門家として携わってきました。学生時代は豚とは無縁だったそうですが、「豚は面白いですね。多胎動物でやり方次第で成績が格段に向上します。生産者と直接関わることでモチベーションが上がり、達成感もありま

す」。新型コロナウイルス禍の前は、農場に直接出向くことも多かったそうで、お世話になっている認定農場も多いかと思えます。「SPF豚農場の方は科学的なアプローチについて、基本をよく理解されている方が多いですね」。

矢原さんが入社した当時は獣医の数も少なく、開業獣医師と協力しながら衛生対策のアドバイスを続けてきました。現在は獣医師も増え、技術サポート部に所属する12名のエキスパートが農場をサポートしています。

また、衛生対策のプロ同士の交流の場として、10年ほど前から「民間家畜衛生機関談話会(通称ラボ会)」を年1回開催しているとのこと。20数社が参加、技術指導などの情報交換から業界全体のレベルアップを図るといのは、技術者の集まりから発展したSPF豚協会の性格とも相通じるものがあるかもしれません。

「SPF養豚は、農場の衛生状態を把握して明らかにし、生産性向上のために対策を実施する。よい考え方だと思います。目指すところは一緒でしょうか」と矢原さん。「協会としても、生産者のために長い間蓄積されたデータを生かすためにも、開業獣医師や行政などと連携することも大事になってくるのではないのでしょうか」とのアドバイスをいただきました。今後も科学的アプローチのプロとして、養豚生産者を支えていきたいと思いました。(編集部)

編集後記

出口の見えない今回の新型コロナ。気の重い毎日です。長丁場になることは確実です。世界のグローバル化にも待ったがかりました。最前線の医療従事者の方々の危険と隣合せの業務には、どれだけ感謝してもしつづけません。養豚業界は巣ごもり消費の恩恵を今のところ受けています。一方、提言にもありますが、人の感染症が原因で協会の認定業務が滞るのは初めてのことです。この事態を受け、ヘルスチェックの手法検討の必要性が再浮上しました。今までの反省をもとに、スピード感をもって取り組みます。(世)



日本SPF豚協会認定農場産シール
このマークは
日本SPF豚協会の
登録商標です

日本SPF豚協会だより

第80号 2020年7月1日発行(季刊)
発行 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376
e-mail:j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人 北島 克好
編集人 藤田 世秀